授業科目	子ども家庭支援論					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	笠　修彰						
授業概要	核家族化、少子高齢化、共働きの増加など社会環境の変化により、近年の子育て家庭は様々な課題を抱えている。子どもの健やかな成長・発達を保障するために、また、親が持てる力を発揮し子育てに関われるようになるには、保育所や地域においてどのような支援が必要なのか、子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえて、家庭支援のあり方等について考察する。						
授業形態	講義			授業方法	グループワークやディスカッションを取り入れる		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解することができる。 2、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解することができる。 3、子育て家庭に対する支援体制について理解することができる。 4、子育て家庭にニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状や課題について理解し、これから必要となる視点や役割について考えることができる。
理想的レベル	標準レベルに加え、子ども家庭支援について学習した知識を保育実践でいかに応用できるか考え出すことができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト	30%	
レポート	30%	
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	40%	授業で作成したノート
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH21107J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
テキストや配布資料、授業で作成したノートをもとに授業で学習した内容を振り返るとともに、授業外で調べたこと等をノートにまとめる。	4

授業計画

第 1 回	テーマ：オリエンテーション 保育士による子ども家庭支援の意義について学習する。また、授業概要や授業計画等について把握する。
第 2 回	テーマ：子ども家庭支援の役割 1 子ども家庭支援が求められる背景や保育所における子ども家庭支援の変遷について学習する。また、子ども家庭支援の基本理念やそれを方向づける概念について学習する。
第 3 回	テーマ：子ども家庭支援の役割 2

	子ども家庭支援の対象や援助技術、保育士が担う支援の特質について学習する。
第 4 回	テーマ：子どもや子育て家庭の育ちと社会の変容 子育て家庭を取り巻く環境とその変化について学習し、その影響によって生じる子育ての葛藤や課題等を考察する。
第 5 回	テーマ：保育士の基本姿勢と倫理 1 保育所保育指針、幼稚園教育要領等にみる子ども家庭支援を学習する。
第 6 回	テーマ：子ども家庭支援の基本姿勢と倫理 2 子ども家庭支援における保育士の姿勢と倫理について学習する。
第 7 回	テーマ：保育相談支援 保育相談支援の構造や技術、またその実際について学習する。
第 8 回	テーマ：特別な配慮を必要とする家庭への支援 特別な配慮を必要とする家庭への支援方法や支援体制等について学習する。
第 9 回	テーマ：地域の子育て家庭への支援 保育所やその他児童福祉施設における地域の子育て家庭への支援等について学習する。
第 10 回	テーマ：社会的養護を必要とする家庭への支援 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設等における支援について学習する。
第 11 回	テーマ：子ども家庭支援に関わる法制度 1 子ども家庭支援の政策的経過について学習する。
第 12 回	子ども家庭支援に関わる法制度 2 子どもの権利に関する条約、児童福祉法、子ども・子育て支援法等、子ども家庭支援に関わる法制度について学習する。
第 13 回	テーマ：社会資源の活用と関係機関等との連携 1 社会資源とは何か、社会資源における連携の留意点等について学習する。
第 14 回	テーマ：社会資源の活用と関係機関等との連携 2 子ども家庭支援に関わる機関や専門職等について学習し、連携のあり方について考察する。
第 15 回	テーマ：まとめ 本科目における学習内容を振り返り、総括する。
テキスト	橋本真紀・鶴宏史編『よくわかる子ども家庭福祉論』ミネルヴァ書房 保育福祉小六法編纂委員会編「保育福祉小六法」（株）みらい
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド本社 その他参考図書については、授業のなかで紹介します。
課題に対するフィ	・小テストや課題に関しては、次の授業の際にポイントを整理しフィードバックを行う。

ードバックの方法	
学生へのメッセージ・コメント	子ども家庭支援に関連する問題や情報に広く関心を持ち、積極的に学び、取り組む姿勢が必要ｔなります。 授業に臨むにあたり、予習、復習を心がけましょう。また、日頃から新聞やニュースに親しむことを通して、保育を取り巻く現状に実践的関心を持ちましょう。